

# 教育と文化

みんなで  
考えよう  
人権・同和問題  
No. 243

このコーナーは、隔月のシリーズで掲載しています。これを手がかりに、家庭で人権・同和問題について話し合ってみましょう。

## ありのままに『らしく』ありたい

『LGBT』は4つの単語の頭文字を組み合わせた言葉で、性的少数者を表現する総称の一つです。Lはレズビアン（女性を好きになる女性）、Gはゲイ（男性を好きになる男性）、Bはバイセクシャル（男女どちらも好きになることができる人）、Tはトランスジェンダー（身体の性と心の性が異なる人）のことです。この視点で考えると、異性を好きになる人は性的多数者と言えるのかもしれない。

また『性』という漢字には、『生まれながらに持つその人の特性』という意味もあり、性は『男』『女』だけではなく、人の数だけ存在することを教えてくれます。このように人を好きになる基準は違っていてもあたりまえなのですが、少数派に対する偏見は根強いものがあります。

素直な『子どもの目線』で

社会を見ると大切なものが見えてきます。例えば、赤いランドセルが欲しいだけで「男のくせに」と言われる男の子がいます。ズボンを履いているだけで「女のくせに」と言われる女の子がいます。自分に責任のないことで生きづらさを抱えている子どもたちがいるのです。そしてこれは、大人社会でも同じことが言えます。

このことから分かるように、『あたりまえ』のことを口実にした理由にならない『言いがかり』が、LGBTを取り巻く偏見の本質なのです。私たちは、傷付けられている少数派の人たちの痛みに気づかなければいけません。

「男らしく」「女らしく」という窮屈なこだわりを捨ててみませんか。きっとそれが、「自分らしく」生きることであり、多様性を認める社会への架け橋になるはずです。

# 郷土の文化財

伊万里の城館跡シリーズ⑮

● 問合先 生涯学習課文化財係 ☎ 233186

## 地北祇園城跡

地北祇園城跡は大坪町祇園にかつてあった中世の山城跡で、現祇園（八坂）神社・山王神社が所在する丘陵一帯を城域にしていたと考えられます。神社境内の他には墓地、公園、休耕地などが混在しているため、城郭遺構の特定は難しい状態ですが、祇園神社の東脇付近が中核をなす空間だったと考えられます。

このほかの遺構らしき痕跡としては、2つの神社の境界が堀切状の地形を残しているほか、山王神社の境内南東隅の下方には、帯曲輪らしき段状地形も観察できます。

地北祇園城跡については城史について一切が不明ですが、1384年（永徳4年）の『下松浦住人一揆契諾状』に記載のある『ちきた若狭守助』との関係が推測され

ています。

現在は神社境内となっており、そのため、地北祇園城跡へは、それぞれの神社の参道から行くことが出来ます。また、八坂神社の参道入口には、市指定の重要民俗文化財の石造物が所在します。併せて見学することをお勧めします。



↑地北祇園城跡の城郭遺構